

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年
9月21日
第166号



サルスベリ（ミソハギ科）

池の前で、花が咲いているのが見られます。中国原産の落葉樹で、日本には江戸時代以前に入ったと言われています。樹皮の表面がスベスベで、木登りが得意なサルでも滑ることから名付けられました。花が美しく、世話をせずにも枯れず、大きくもならないため、街路樹としてよく利用され、本学でもグラウンド北側に植えられています。

根が紫薇根（シビコン）、樹皮が紫薇皮（シビヒ）となり、中医学で紫薇根が清熱利湿、活血止血を目的に、紫薇皮が清熱解毒、利湿祛風を目的に利用されるそうですが、日本の漢方医学では利用されません。

この紫微とは、サルスベリの中国語での植物名ですが、もともとは中国古代の天文学で北極星のことを紫微星、その周りの星座群のことを紫微垣と呼び、その略称になります。紫微垣は天帝が住む場所とされ、唐代の長安の宮廷によく植えられていた本種が、紫微と名付けられたそうです。

パイナップル

（パイナップル科）

今、温室の中で「果実」が熟してきています。南米原産の多年草で、日本では宮崎県が栽培できる北限で、それ以北では温室内でのみの栽培となります。本園ではこの1株から毎年「果実」を収穫しているので、年々、小さくなっています。もっぱら果物として消費されますが、可食部（果肉）は本当は果実ではなく、花を下部で支えている花托が肥大した部分です。本当の果実は、「果実」の表面にらせん状に並んだ突起物から果肉の表層までの部分で、固くて食べられません。

中国での民間では、その果皮が菠蘿皮（ハラヒ）という生薬となり、健胃、止渴、止咳や止痢を目的に利用されるそうです。また、フィリピンでは、パイナップルの葉から繊維を取り、服を仕立てたりもするそうです。